

平成 28 年度福岡県がん対策推進協議会  
小児がん拠点病院（九州大学病院）報告

1. 第 2～4 回小児がん拠点病院連絡協議会 報告 . . . . . 資料 1
2. 厚生労働科学研究費 班会議（松本班） 報告 . . . . . 資料 2
3. 第 6、7 回九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 . . . . . 資料 3
4. 九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院 TV 会議 報告 . . . . . 資料 4
5. 九州大学病院小児緩和ケアチーム活動報告 . . . . . 資料 5
6. 九州大学病院 CLS（チャイルド・ライフ・スペシャリスト）活動報告 . . . . . 資料 6
7. 宿泊費補助事業について . . . . . 資料 7
8. 小児がんに関するイベントの報告 . . . . . 資料 8

## 第 2 回小児がん拠点病院連絡協議会 議事次第

日時：平成 27 年 6 月 8 日（月） 14：00～17：00

場所：TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター 4P

### I 開会挨拶

国立成育医療研究センター 理事長 五十嵐 隆

国立がん研究センター 理事長 堀田 知光

厚生労働省健康局がん対策・健康推進課 課長補佐 鈴木達也

### II 議事

1. 拠点病院のあり方について（アンケート調査結果）
2. 平成 26 年度アドバイザリーボード会議の報告
3. 小児がん登録について
4. 相談支援事業について
5. テレビ会議システムの運用について
6. 総合討論
7. その他

## 第3回小児がん拠点病院連絡協議会 議事次第

日時：平成28年1月21日（木）13:00～16:00

場所：TKP 品川カンファレンスセンター バンケットホール6C

### I 開会挨拶

国立成育医療研究センター 病院長 賀藤 均

厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課

### II 議 事

1. 中央機関からの報告

2. 相談支援部会からの報告

3. 病理連絡部会の設立についての提案

4. 各ブロック統括施設からの報告

- ・多職種カンファ
- ・緩和ケア
- ・長期フォロー体制

5. 総合議論

- ・人材育成
- ・診療病院情報の収集と提供
- ・ブロック協議会の下に部会を設置  
(相談支援部会)



# 平成27年度現況報告書について

厚生労働省健康局  
がん・疾病対策課

## 小児がん拠点病院の現況報告について

- 「小児がん拠点病院等の整備に関する指針」（平成24年9月7日付け健発第0907第2号健康局長通知の別添）のⅣの2の（2）において規定
- 小児がん拠点病院は、毎年10月末までに現況報告書を厚生労働大臣に提出
- 提出された現況報告書の内容をもとに、指定要件の充足状況等についての確認を行う
- 現況報告書の内容の確認の結果、既指定拠点病院等が指定要件に欠くに至ったと認められるときは、その指定を取り消すことがあり得る



## 現況報告 概要

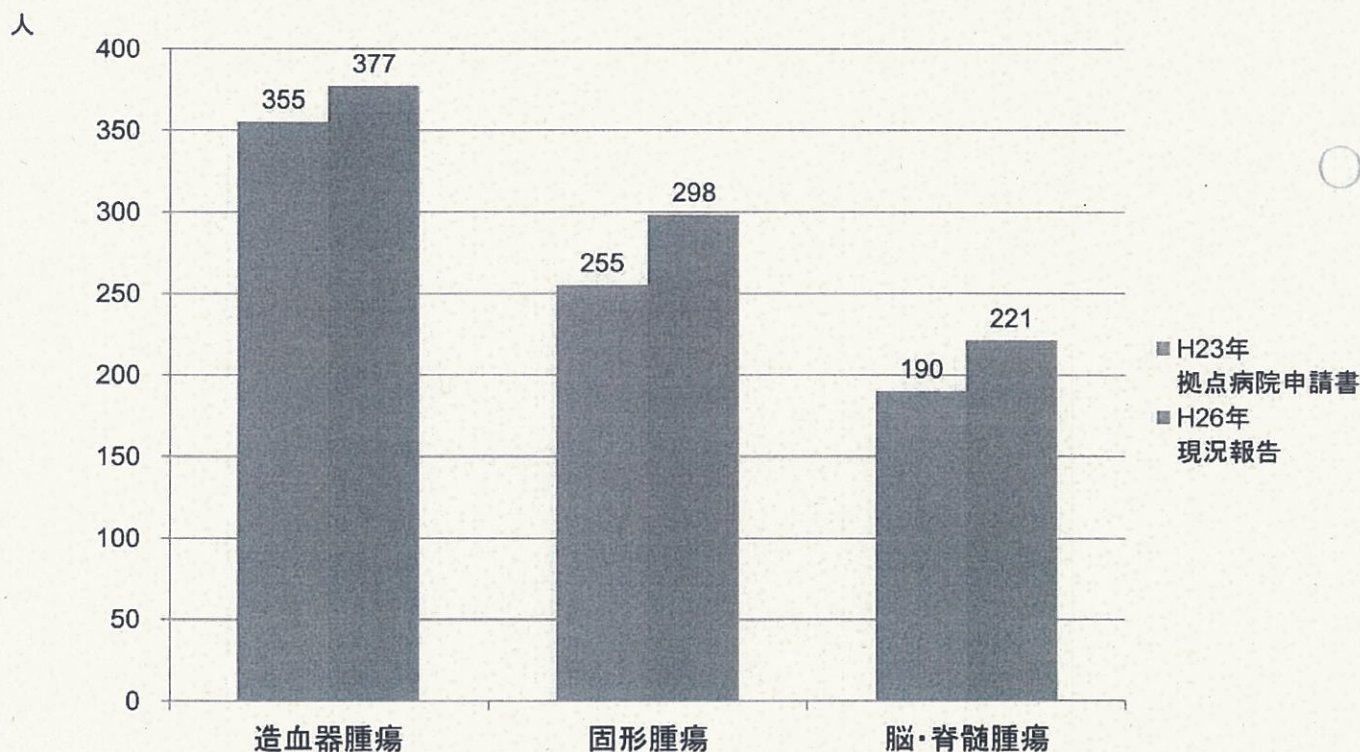
- 必須要件（A項目）：48項目
  - 全拠点病院で充足
- 努力目標（B項目）：18項目
  - 充足病院数の少ない項目

	充足病院数
患者のきょうだいに対する保育の体制整備を行っている。	10
地域連携クリティカルパスを活用するなど、地域の医療機関等と協力し、必要に応じて、退院時に当該小児がん患者に関する共同の診療計画の作成等を行っている。	8
患者の状況に応じて、地域連携クリティカルパスを整備している。	6

きょうだい保育や地域連携パスについて充足病院が少ないが、特に小児がん領域における地域連携パスについては再検討が必要か

2

## 拠点病院の診療実績



各疾患ともに拠点病院の診療実績はやや増加している

3



# 診療連携（Web会議等の活用の例）

「現況報告（別紙11）地域の医療機関との連携協力体制」より抜粋

- 1北海道大学病院 地方の関連病院に1回/月で専門医が出張し、地域に戻った小児がん患者の診療及び関連病院医師との連携を行っている。
- 2東北大学病院 成人領域も含めた東北がんネットワークに小児がん専門委員会を設立し、全小児がん診療病院が同時にカンファレンスを行うことが可能なインターネットカンファレンスシステムを構築している。この遠隔医療システムを利用し、合同カンファレンスや紹介症例の情報共有を行っている。
- 10京都府立医科大学病院 近畿・北陸・岐阜地域の関係施設(68施設)と連携し、患者の紹介や地域での診療依頼などの連携を行っている。インターネット会議を推進し、遠方の地域とのカンファレンス、患者情報交換などを行っている。
- 14広島大学病院 広島大学と広島赤十字原爆病院・山口大学医学部附属病院では小児血液・がん診療に従事する医師間で月に1回のインターネットを用いたテレビカンファレンスを定期的に開催し、診断、治療方針等を共有することで連携の強化を図っている。
- 15九州大学病院 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会に属する19施設に、福岡県内の2施設を加えた合計21施設と接続するテレビ会議システムを整備している。毎月第4月曜日(16:00~17:00)にテレビ会議を開催しており、会議では症例検討や研修カンファレンス、毎回小児がんに関するテーマを1つ決めて討論会を行っている。



# 人材育成「研修プログラムの状況（別紙18）」より集計

	プログラム名	医師向け	看護師向け	コメディカル向け	総開催回数
1北海道大学病院	日本小児血液・がん学会専門医研修プログラム	1			1
2東北大学病院	小児科研究プログラムinみやぎ 日本小児血液・がん学会専門医研修プログラム	2			2
3埼玉県立小児医療センター	小児血液腫瘍疾患研修(2年、8~10か月)	2			2
4成育医療研究センター	小児血液腫瘍フェロー研修 レジデント(小児科後期研修医)研修 東京医科大学後期研修	2			3
5東京都立小児総合医療センター	クリニカル・フェロー(小児血液・腫瘍コース)「東京医師アカデミー(注)」最上級コース。 サブスペシャリティレジデント(小児血液・腫瘍コース)「東京医師アカデミー(注)」小児科・新生児科の各専門領域を学ぶコース。	2			2
6神奈川県立こども医療センター	小児血液・がん専門医研修プログラム	1			1
7名古屋大学病院	短期小児がん研修プログラム 長期がん研修プログラム 脳腫瘍研修プログラム 脳腫瘍研究	4			4
8三重大学病院	日本小児血液・がん専門医研修プログラム(三重大学小児科) 三重大学小児血液・がん短期専門研修プログラム 免疫学的小児白血病診断研修プログラム(医師、検査技師向け研修) チャイルドライフスペシャリスト体験プログラム	3*		2*	4

\*1プログラムは医師及び検査技師対象

6

# 人材育成「研修プログラムの状況（別紙18）」より集計

	プログラム名	医師向け	看護師向け	コメディカル向け	総開催回数
9京都大学病院	小児血液・がん専門医養成コース 小児血液・がん専門医強化コース 大学病院とマグネット病院との機能連携を基盤とした高度医療人養成プラン	3			3
10京都府立医科大学病院	小児血液・がん研修プログラム 小児血液・がん専門医研修プログラム (小児外科)小児がん研修プログラム (小児外科)小児がん専門医研修プログラム	4			4
11大阪府立母子医療総合センター	血液・腫瘍科レジデント 小児外科レジデント ホスピタルプレイス養成コース	2		1	3
12大阪市立総合医療センター	小児総合診療コース 小児総合診療コース 小児血液・がん専門医育成コース 小児がん・緩和ケア短期研修コース	4			4
13兵庫県立こども病院	日本小児血液がん専門医研修施設研修プログラム 日本小児科学会専門医研修プログラム小児科専攻医コースA 日本小児科学会専門医研修プログラム小児科専攻医コースB 小児血液腫瘍短期研修	4			4
14広島大学病院	広島大学病院日本小児血液・がん専門医研修施設 研修プログラム 広島大学病院臨床心理士 小児研修コース 中国四国ブロック小児がん看護プログラム	1	1	1	3
15九州大学病院	小児がん診療病棟実習(初期) 小児がん診療病棟実習 小児がん診療専門病棟実習 小児がん診療専門外来実習 KPI	5			5

7



がん対策は、「がん対策推進基本計画」(平成24年6月)に沿って進めている。基本計画では、平成19年度から10年でがんの年齢調整死亡率を20%減少させることを全体目標としているが、このままでは目標達成が難しいと予測されている。このため、平成27年6月1日に開催された「がんサミット」で内閣総理大臣の指示を受け、厚生労働省が中心となり、基本計画に示されている分野のうち、①遅れているため「加速する」ことが必要な分野、②当該分野を「加速する」ことにより死亡率減少につながる分野に絞り、短期集中的に実行すべき具体策を明示した「がん対策加速化プラン」を策定することとした。プランの3つの柱は「がんの予防」、「がんの治療・研究」、「がんとの共生」である。

## 実施すべき具体策

### 予防

- ① がん検診
  - ・ 精検受診率等の目標値設定
  - ・ 市町村、保険者の受診率及び取組事例等の公表
  - ・ 保険者に対する検診ガイドラインの策定
  - ・ 検診対象者等へのインセンティブの導入
- ② たばこ対策
  - ・ FCTCや海外のたばこ対策を踏まえた、必要な対策の検討
  - ・ 厚生労働省としては、たばこ税の税率の引上げを継続して要望
  - ・ ラグビーW杯、東京オリンピック・パラリンピックに向けた受動喫煙防止対策の強化
- ③ 肝炎対策
  - ・ 患者の自己負担の軽減を通じた、重症化予防の推進
- ④ 学校におけるがん教育
  - ・ 「がんの教育総合支援事業」の実施 等

### 治療・研究

- ① がんのゲノム医療
  - ・ ゲノム医療実現に向けた実態調査
  - ・ 全ゲノム情報等の集積拠点の整備
  - ・ 家族性腫瘍の検査・治療等の検討
- ② 標準的治療の開発・普及
  - ・ 高齢者や他疾患を持つ患者への標準的治療の検証
- ③ がん医療に関する情報提供
  - ・ 患者視点で簡単に検索できる拠点病院検索システムの構築
- ④ 小児・AYA世代のがん、希少がん
  - ・ 小児がん医療提供体制、長期フォローアップ体制等の検討
  - ・ AYA世代のがん医療等の実態調査
- ⑤ がん研究
  - ・ 「健康・医療戦略」・「医療分野研究開発推進計画」及び「がん研究10か年戦略」を踏まえた研究の推進 等

### がんとの共生

- ① 就労支援
  - ・ 拠点病院における仕事の継続を重視した相談支援の実施
  - ・ ハローワークにおける就職支援の全国展開、事業主向けセミナー等の開催
  - ・ 産業保健総合支援センターの相談員による企業等に対する相談対応等の支援
  - ・ 企業向けのガイドラインの策定及び普及啓発
- ② 支持療法の開発・普及
  - ・ 支持療法に関する研究の推進
- ③ 緩和ケア
  - ・ 緩和ケアチームの実地研修の実施
  - ・ 患者の苦痛のスクリーニング方法の事例集の作成
  - ・ 地域連携のための訪問看護師の育成 等

避けられるがんを防ぐ

がん死亡者の減少

がんと共に生きる

“がん”を克服し、活力ある健康長寿社会を確立

## 診療に関する情報提供（がん対策加速化プランより抜粋）

### 2. 治療・研究 ～がん死亡者の減少～

#### (3) がん医療に関する情報提供

がん患者や家族が必要とする情報のうち医療機関に関する情報を提供するため、拠点病院等の院内がん登録や現況報告で得られる情報を活用し、希少がんや小児・AYA (Adolescent and Young Adult) 世代 (思春期世代と若年成人世代) のがんも含め、診療実績や医療従事者の配置等、患者や家族が必要とする情報を簡単に検索でき、医療施設同士の比較も可能なシステムを構築し、広報・周知する。



小児がんについても、H28年夏を目途に公表していく予定



## 2. 治療・研究 ～がん死亡者の減少～

### (4) 小児・AYA世代のがん・希少がん対策

#### 1) 小児・AYA世代のがん対策

#### ＜実施すべき具体策＞

小児・AYA世代のがん患者に対し、専門的な治療を提供することのできる施設の整備や、情報提供、晩期合併症や後遺症などの長期フォローアップ体制、がん患者の療育・教育・就労環境の整備を充実するため、以下の施策を実施する。

- 「小児がん拠点病院連絡協議会」等を活用し、小児がん拠点病院の専門的医療の提供、地域医療機関との連携、相談支援、情報提供等、小児がん医療提供体制や長期フォローアップ体制等のあり方を検証する。
- AYA世代固有の詳細な課題を明らかにするため、AYA世代のがん医療等に関する実態調査や研究を進める。

10

## 今後検討すべき課題の例（案）

- 小児がんの診療提供体制（集約化）
  - Web会議の活用や医師の定期訪問により地域の医療機関で診療を受けられる患者
  - 医師不足等の理由により拠点病院の受診が必要な患者
- 長期フォローアップ
  - 目的の明確化（診療、研究）
  - 実現可能性を考慮した計画の立案・実施
- AYA世代のがん対策のあり方

11



## 第4回小児がん拠点病院連絡協議会 議事次第

日時：平成28年6月15日（水）14：00～17：00

場所：国立がん研究センター 管理棟1階 特別会議室

1. 開会挨拶  
国立がん研究センター 理事長 中釜 齊  
国立成育医療研究センター 理事長 五十嵐 隆
2. 厚労省挨拶  
厚生労働省健康局がん・疾病対策課  
がん対策推進官 丹藤 昌治

### 3. 議 事

#### (1) 報告事項

- ① 小児がん相談・支援事業について 資料1
- ② 小児がん中央機関としての国立がん研究センターの活動  
情報提供を中心に 資料2
- ③ 小児がん医療従事者育成事業について 資料3
- ④ 小児がん中央機関アドバイザリーボードについて 資料4

#### (2) 討議事項

- ① 相談支援部会の設置について 資料5
- ② 診断部会の設置について 資料6
- ③ 小児がん診療施設に関する情報公開について 資料7
- ④ 小児がん登録準備事業について 資料8
- ⑤ アンケート結果について 資料9

### 4. 総合討論

### 5. 閉会



## 小児がん相談支援事業報告

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター  
医療連携・患者支援センター 鈴木 彩

### 1. 平成28年度事業について

- 第4回 小児がん拠点病院連絡協議会 相談支援部会  
開催日：平成28年7月4日（月）13：30～16：30  
場所：埼玉大学東京ステーションカレッジ
  
- 第5回 小児がん拠点病院連絡協議会 相談支援部会  
開催日：平成29年3月3日（金）13:30～16:30  
場所：埼玉大学東京ステーションカレッジ
  
- 平成28年度小児がん相談員専門研修  
開催日：平成28年8月13日（土）・14日（日）  
対 象：厚生労働大臣の指定した小児がん拠点病院、または小児がんに関わる地域ブロック協議会の参画施設において相談業務に携わる方  
場 所：国立がん研究センター 特別会議室
  
- 平成28年度小児がん拠点病院相談員継続研修  
開催日：平成28年12月18日（日）  
対 象：厚生労働大臣の指定した小児がん拠点病院において、相談支援に携わる方  
場 所：未定（東京都内にて開催予定）

### 2. その他

- 小児がん拠点病院の相談支援センターの周知
- 各ブロックにおける相談員の相談支援部会の立ち上げを支援



九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 第1回相談支援部会を下記のとおり開催予定。

日 時： 2016年11月11日（金）13時～

場 所： 九州大学医学部総合研究棟 105

対 象： 小児がんに関する相談に携わっている方  
職種不問（看護師・社会福祉士等。出席は各施設2名まで。）

内 容： 1. 小児がん医療相談支援体制の整備について ～医師、相談員の立場から～  
(予定) 2. 各施設からの報告  
3. 意見交換など

## 小児がん診療施設に関する情報公開について

### (1) 情報公開の目的と意義

ブロック内の小児がん診療を担う医療機関の連携を強化し、小児がん患者および家族により正確な情報を提供することを目的として、小児がん診療施設に関する情報を公開する。

小児がん診療情報を公開することで、小児がん患者およびその家族が診療病院を選択する一つのツールとなるため、小児がん医療の集約化に資すると考えられる。また、この情報公開により、小児がん診療に携わる地域の医療機関と連携し、これらの医療機関の診療機能を支援することが可能となる。

### (2) 情報公開の必要性

小児がん中央機関は、小児がんに関する情報を収集し、広く国民に提供することを役割の一つとしている。小児がん拠点病院においては、既に統一された様式で、領域別の小児がん診療機能、診療実績の情報公開を行っており、その情報は「小児がん情報サービス」に掲載され、小児がん患者およびその家族に十分に活用されている。

しかし、小児がん診療を担う各医療機関の診療情報は、公開の有無および公開される内容等に関して統一されておらず、小児がん患者およびその家族に対する情報は十分ではない。また、成人がん拠点病院全体の情報の把握は、院内がん登録からある程度把握することは可能だが、院内がん登録は初発患者が対象であり、再発小児がんに関する情報が不足している。

小児がん拠点病院は、小児がん診療に携わる地域の医療機関と連携し、これらの医療機関の診療機能を支援することが求められている。今回、小児がん拠点病院がブロック内の小児がん診療を担う医療機関の診療情報を収集することにより、小児がん拠点病院とブロック内の小児がん診療を担う医療機関のより密な連携を得ることができ、ブロックの取り組みの活性化につながる。

### (3) 公開する情報

- ①医療機関の名称等
- ②医療機関の体制
- ③診療実績
- ④臨床研究の実施状況



関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会参加施設の情報公開

医療機関名	
住 所	
施設ホームページ	
<<患者相談窓口>>: 名称、電話、Fax、メールアドレス、対応可能時間	
名 称	
電 話	
F A X	
メールアドレス	
対応可能時間	
<<医療機関相談窓口>>: 名称、電話、Fax、メールアドレス、対応可能時間	
名 称	
電 話	
F A X	
メールアドレス	
対応可能時間	

施設の特徴(アピール)	
-------------	--

診療受け入れ容量	
小児がん病床(対応可能数)	
集中治療床(うちPICU、HCU)	
外来化学療法(◎実績あり、○可能)	
休日・夜間救急対応(◎院外患者対応可能(条件記載)、○院内患者のみ対応可能)	
フォローアップ外来(◎フォローアップ専門外来、○そのほかの外来)(外来日)	
小児がんセカンドオピニオン対応可能診療科	

診療実績(新規診断治療数)	2015	2014	2013	2010、2012	
造血器腫瘍	0	0	0	0	自動計算されます
急性リンパ性白血病					
急性骨髄性白血病					
リンパ腫					
組織球症					
その他の造血器腫瘍					
脳脊髄腫瘍					
固形腫瘍	0	0	0	0	自動計算されます
網膜芽腫・眼腫瘍					
神経芽腫群腫瘍					
腎腫瘍					
肝腫瘍					
骨腫瘍					
軟部腫瘍					
胚細胞腫瘍					
その他の固形腫瘍					

診療実績(入院数)	2015	2014	2013	2012
小児がん入院患者延べ数				
小児がん入院在院延べ日数				
全入院患者延べ数				
全入院患者入院在院延べ日数				

診療実績(再発・治療抵抗実治療数) (2015年以降は再発例のみ)	2015	2014	2013	2010、2012
再発造血器腫瘍				
再発脳脊髄腫瘍				
再発固形腫瘍				
死亡患者数				

診療実績	2015	2014	2013	2010、2012	
同種造血細胞移植	0	0	0	0	自動計算されます
同胞間造血細胞移植					
家族間ハプロ造血細胞移植					
非血縁造血細胞移植					
臍帯血移植					
自家造血細胞移植					

集学的治療実施体制(10例/年以上 ◎、可能 ○)	化学療法	手術	放射線
固形腫瘍(下記以外)			
脳腫瘍			
眼・眼窩腫瘍			
骨・軟部腫瘍			

療養環境・支援



面会時間	
面会可能者	
集中治療室面会時間	
面会可能者	
付き添い(○不要、◎希望で24時間可能、□24時間必要、△夜間必要、▽その他(具体的に記載))	
入院可能年齢	

相談窓口	
患者家族宿泊施設(◎敷地内、○近隣)	
代表的施設名	
患者同胞短時間預かり施設(◎院内、○近隣)	
患者家族休憩室(◎予約不要、○予約要)	
院内患者家族会(名称、連絡先)	

院内学級(◎:分教室、○:訪問教育)	
通院患者の通学(○可能)	
ベッドサイドでの授業(○可能)	
高校生への教育支援体制(◎:分教室、○:訪問教育)	
通院患者の通学(○可能)	
ベッドサイドでの授業(○可能)	
就学前児童保育	
保育士	
臨床心理士	
チャイルドライフスペシャリスト	
ホスピタルプレイスペシャリスト	
子ども療養支援士	
ソーシャルワーカー	

上記は小児がん診療に実際に携わる人員です。

<b>診療機能</b>	
病理組織診断	
放射線治療	
臓器移植(対象臓器)	
非血縁同種骨髄移植認定施設	
非血縁同種末梢血幹細胞移植認定施設	
臍帯血移植認定施設	
輸血・細胞療法センター	
集中治療部(◎小児専門もあり、○あり)	
長期フォローアップ(院外患者対応可:◎(条件記載)、院内患者のみ:○)	
移行医療(院外患者対応可:◎(条件記載)、院内患者のみ:○)	
緩和ケア(院外患者対応可:◎(条件記載)、院内患者のみ:○)	
思春期・青年期がん診療(高校生以上)(◎実績あり、○可能)	
(対応可能年齢)(特色)	

<b>専門資格保持者</b>	
小児科専門医	
小児外科専門医	
日本小児血液・がん学会認定外科医	
脳神経外科専門医	
整形外科専門医	
眼科専門医	
日本小児泌尿器科学会認定医	
日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医	
日本放射線腫瘍学会放射線治療専門医	
小児歯科専門医	
リハビリテーション科専門医	
がん治療認定医機構がん治療認定医	
日本輸血・細胞治療学会認定専門医	
日本放射線治療専門放射線技師認定機構放射線治療専門放射線技師	
がん専門薬剤師	
日本病院薬剤師会がん専門薬剤師	
日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師	
がん看護専門看護師	
小児看護専門看護師	
がん化学療法看護認定看護師	
緩和ケア認定看護師	
がん性疼痛看護認定看護師	
小児血液・がん専門医	
移植認定医	

上記は小児がん診療に実際に携わる人員です。

<b>臨床研究</b>	
臨床研究支援センター	
参加臨床試験数	
治験実施(有○)	
治験実施内容	

上記は小児がん診療に関する試験数です。



関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会参加施設の情報公開  
入力に関する注意（2016版）

（1）診療実績（新規診断治療数）

その年の1/1～12/31に施設で何らかの治療を開始した数を記載してください。自施設診断例は新規診断日が上記の期間のもの、再発症例は自施設での治療開始日が上記の期間のもの、転院症例は転院日が上記の期間のものでお願いします。外来のみの経過観察目的の転院症例はカウントされません。同様にセカンドオピニオンの症例も対象になりません。結果的には、院内がん登録＋再発例の合算になります。（例外として、脳幹グリオーマなどの担癌状態での経過観察例はカウントしてください。）

（2）診療実績（入院数）

①小児がん入院患者延べ数

その年の1/1～12/31に施設で診療を行った18歳以下の小児がん診断例の入院患者延べ数を記載してください。延べ数のカウント方法は、以下のとおりです。

- ・同一患者が同年に2回入院した場合は、2件
- ・入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も1件として計上
- ・同じ患者が連続100日入院しても、1件

※ この数は、小児がん患者で、入院診療計画書を書いた数と同じになります。また、小児がん入院患者在院延べ日数を小児がん入院患者延べ数で割ったものが、小児がん患者一人あたりの平均入院期間となります。

②小児がん入院患者在院延べ日数

その年の1/1～12/31に施設で診療を行った18歳以下の小児がん診断例の入院患者在院延べ日数を記載してください。入院期間中に外泊した場合、外泊期間の日数は在院のべ日数に含まれます。小児がん入院患者在院延べ日数は、毎日の小児がん入院患者数の総和になります。すなわち、この日数を365で割った数が、一日平均の在院患者数となります。

（3）診療実績（再発・治療抵抗実治療数 2015年以降は再発例のみ）

その年の1/1～12/31に施設で診療を行った18歳以下の小児がん診療例のうち、その年の1/1～12/31に再発を来した患者数（自院での再発、再発例の他院からの紹介を含む）を記入してください。

※ 死亡症例数は、その年の1/1～12/31に経験した原病死、合併症死などすべての死亡を含みます。在宅医療に移行して死亡した症例も含むこととします。



平成 28 年度 第 1 回松本班 班会議  
プログラム

日時：平成 28 年 6 月 15 日（水） 10：30～13：30  
場所：国立がん研究センター 管理棟 1 階 特別会議室  
〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

【開会のあいさつ】

国立成育医療研究センター 松本 公一

【研究概要】

1) 小児がん診療連携方法の確立とチーム医療のあり方

①看護師の業務実態調査の報告

東海大学 井上 玲子

②小児がん診療病院の診療実績の収集および患者動態について

・ 関東甲信越地区の診療実績報告

国立成育医療研究センター 松本 公一

・ 収集するデータと院内がん登録データの整合性について

2) 小児がん診療における Quality Indicator (QI)

大阪市立総合医療センター 藤崎 弘之

3) 小児がん経験者や家族の実態調査

①小児がん拠点病院でフォローアップ中の小児がん経験者の実態調査と長期的支援への橋渡しに関する研究

日本医科大学 前田 美穂

武蔵野大学 小俣 智子

4) 小児がん経験者を長期にフォローし支援する仕組みの検討

①システムによる小児がん長期フォローアップ計画策定の仕組みの実行可能性の検証

国立成育医療研究センター 松本 公一

②ディスカッション

【まとめ、今後の計画】

【閉会のあいさつ】

国立成育医療研究センター 松本 公一

次回、班会議は平成 29 年 2 月 23 日（木）を予定しております。



## 別表 中間評価結果

研究事業名(年度): がん対策推進総合研究事業(平成27年度)

研究代表者名: 松本 公一

研究課題名: 小児がん拠点病院を軸とした小児がん医療提供体制のあり方に関する研究

課題の継続の可否
可

○総合評価点数 \*( )内は全研究課題の平均点  
20点中 13.3点 (平均 13.4点)

○全研究課題の総合評価点数分布内訳

点数	~11.9	12.0~12.9	13.0~13.9	14.0~14.9	15.0~
課題数	2	6	10	8	2

【評価委員会のコメント】

【評価できる点、推進できる点】

- ・モデル事業として着実に進捗中。
- ・地域包括ケアの中において小児がんの在宅支援については未開発の部分であり、今後ノウハウがこの方面に生かされることが期待される。小児がん患者の支援については、現在「小児慢性特定疾患医療助成制度」の利用があるが、小児がん拠点病院の整備は都市部に集中しており、小児がん患者は数は多くはないとはいえ、地理的経済的にアクセスが難しい患者にとってはそれ以外の医療機関との診療ネットワークの構築は重要である。
- ・小児がんの医療提供体制のあり方は、今後希少がんなどのモデルとなることから、本研究の意義は高い。小児がん診療病院のQI情報を一般公開し、施設の質的改善を目指す取り組みは高く評価される。

【疑問点、改善すべき点その他助言等】

- ・研究項目によって進捗にばらつきが認められる。小児がん診療連携方法の確立に関する研究は進捗が見られない。小児がん経験者やその家族の実態調査は、重要な課題であるが研究目的について十分な説明と理解が必要である。
- ・集約化はどのように推進するのか。
- ・小児がん拠点病院以外の病院における小児がん診療の実態把握のために、地域がん登録・学会の小児がん登録との連携が必要。
- ・Quality Indicator(QI)はプロセス評価を中心として作成すべき。
- ・QIは、ストラクチャー、プロセス、アウトカムなど包括的な評価を可能にする。アウトカムまで評価できる指標を使う研究はまだ少ない。そのため本研究プロジェクトは他のがん種のモデルケースとなりえることから調査結果に期待したい。
- ・「グリーンケア」が不十分であるが、スタンダードモデルは小児がんではあるのか。

【倫理性について】

-



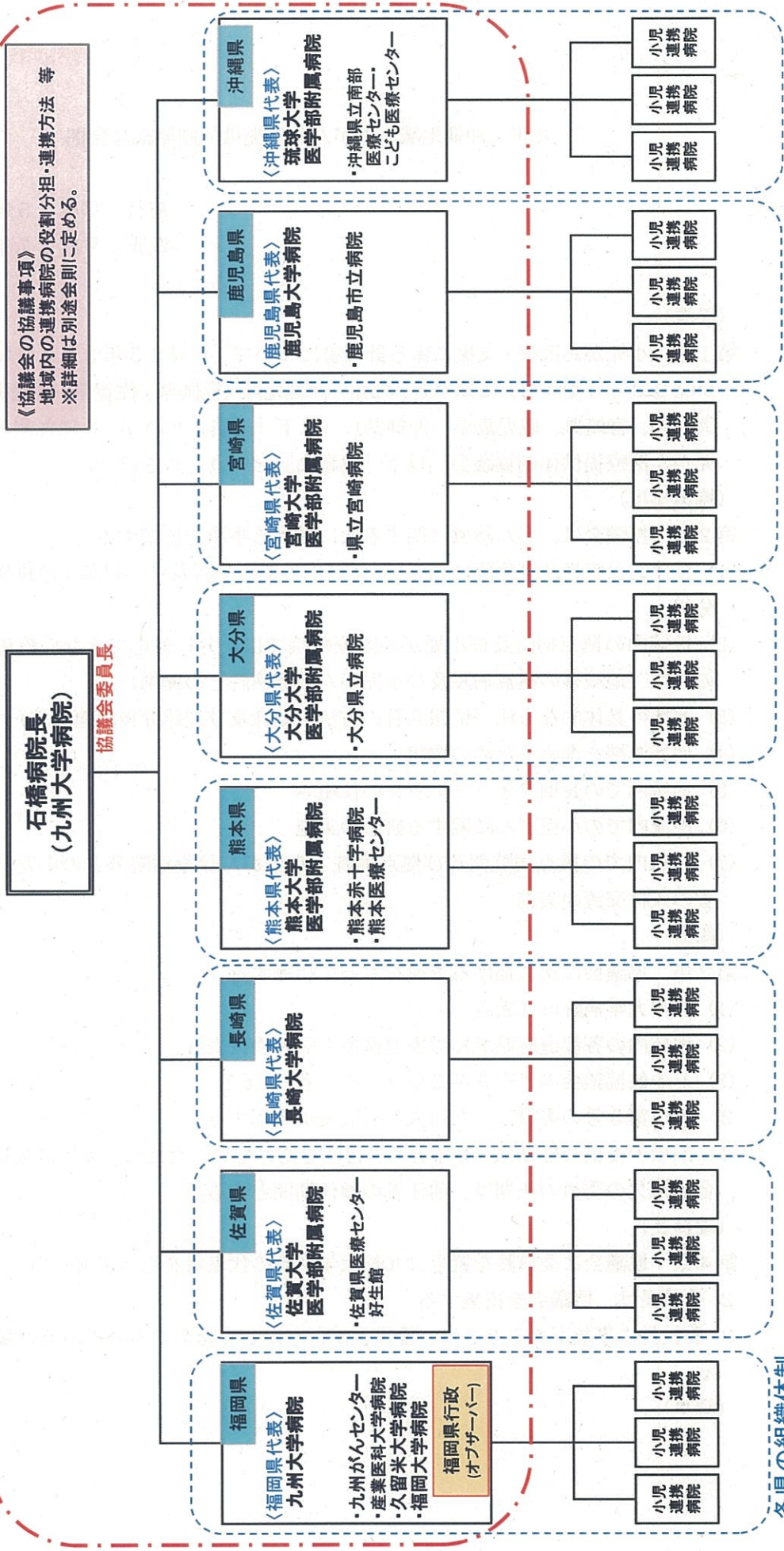
評価結果の対応状況について

番号	研究 代表者	所属機関	採択課題名	開始	終了	事項	対応状況
6	松本 公一	国立研究開発 法人国立成育 医療研究セン ター小児がん センター	小児がん拠点 病院を軸とした 小児がん医療 提供体制のあ り方に関する研 究	26	28	研究項目によって進捗にばらつきが認められる。特に小児がん診療連携方法の確立に関する研究は進捗を示すこと。  集約化はどのように推進するのか。  小児拠点病院以外の病院における小児がん診療の実態把握のために、地域がん登録・学会の小児がん登録との連携が必要と考えるが如何か。	診療連携方法の確立に関しては、①拠点病院および診療病棟の診療情報の収集 ②看護師との連携に関するアンケート調査 の二本立てで研究を進めております。研究計画書に反映いたします。  小児がん患者の集約化は、疾患によってその方向性が異なると考えます。拠点病院と診療病棟の連携を密にする事で、集約化すべき疾患を明確にし、集約化を推進いたします。  日本小児血液・がん学会の疾患登録の最終集計は当センターで実施しており、日本小児外科学会の登録とのすり合わせ作業も開始している。院内がん登録のデータ利用はハードルが高いが、国立がん研究センターとの連携の可能性を模索する予定である。
						Quality Indicator(QI)はプロセス評価を中心として作成すべきと考えるが如何か。	ご指摘の方向で最終的なQIの確定を行うべく、QI検討担当者で協議しているところである。
						「グリーフケア」が不十分であるが、スタンダードモデルは小児がんではあるのかを示していただきたい。	グリーフケアのスタンダードモデルは、小児では確立されておられません。今後の研究で、拠点病院間のスタンダードモデルを示す事を目標にいたします。



# 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制

九州・沖縄地区小児がん医療提供体制協議会



各県の組織体制

《協議会の協議事項》  
地域内の連携病院の役割分担・連携方法 等  
※詳細は別途会則に定める。



## 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会会則

施行 平成25年6月15日

改正 平成27年9月28日

### (設置)

第1条 小児がん医療・支援に係る計画書について(平成25年3月4日厚生労働省健が発0304第1号)に基づき、九州・沖縄地域(福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県)(以下「地域」という。)に九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会(以下「協議会」という。)を置く。

### (協議事項)

第2条 協議会は、がん診療に関する次に掲げる事項を協議する。

- (1) 具体的な疾患及び病態に関して、地域内の拠点病院及び小児がん診療病院との役割分担
- (2) 地域内の拠点病院及び小児がん診療病院では十分に対応できない疾患及び病態への対応(地域外の拠点病院及び小児がん診療病院との連携)
- (3) 連携の具体的な方法(情報共有の方法、紹介及び逆紹介後の連絡等)
- (4) 地域連携を進めるための取組
- (5) 地域内での長期フォローアップの仕組み
- (6) 地域内での小児がんに関する研修の実施
- (7) 地域内での拠点病院間及び拠点病院と小児がん診療病院等との小児がん医療従事者の人材交流の実施

### (組織)

第3条 協議会は次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 九州大学病院の代表者
  - (2) 地域内の各都道府県がん診療連携拠点病院の代表者
  - (3) その他協議会の代表者が必要と認める者 若干名
- 2 前項第3号の委員は、九州大学病院長が委嘱する。
- 3 前項の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (委員長)

第4条 協議会に委員長を置き、九州大学病院の代表者をもって充てる。

- 2 委員長は、協議会を招集する。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

### (議事)



第5条 協議会は、委員の過半数が出席しなければ、議事を開くことができない。

2 委員は、やむを得ない理由により会議に出席することができないときは、その代理者を出席させることができる。

(意見の聴取)

第6条 委員長は、必要があるときは、委員以外の者を協議会に出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 協議会の事務は、九州大学病院において処理する。

(雑則)

第8条 この会則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附則 この会則は、平成25年6月15日から施行する。

附則 この会則は、平成27年9月28日から施行する。



# 第6回 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会

日時 平成27年9月28日(月) 16:00～17:00

場所 九州大学病院アジア遠隔医療開発センター

(テレビ会議)

## 会議次第

I 開会挨拶 九州大学大学院医学研究院 周産期・小児医療学 教授 高田英俊

### II 議事

1 旧)九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院連絡会議 第4、5回議事録確認

2 小児がん拠点病院について

(1) 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会

- |              |        |
|--------------|--------|
| ①組織図、構成員     | 資料 1-1 |
| ②会則の改正について   | 資料 1-2 |
| ③会議の運用変更について | 資料 1-3 |

(2) 平成27年度の活動報告

- |                                    |        |
|------------------------------------|--------|
| ①九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院テレビ会議について        | 資料 2-1 |
| ②九州大学病院小児緩和ケアチーム活動報告               | 資料 2-2 |
| ③九州大学病院 CLS(チャイルド・ライフ・スペシャリスト)活動報告 | 資料 2-3 |

(3) 厚生労働科学研究 平成27年度第1回松本班 班会議報告 資料 3

(4) 第2回小児がん拠点病院連絡協議会報告 資料 4

(5) 日本小児がん研究グループ(JCCG)会議報告 資料 5

(6) 治験について 資料 6

(7) その他



## 第6回九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会議事録

日時：平成27年9月28日（月）16:00～17:00

場所：各参加施設（テレビ会議システム）

出席者：田口智章（九州大学病院小児外科：副委員長）、  
稲垣二郎（九州がんセンター小児科）、本田裕子（楠原委員代理：産業医科大学小児科）、  
上田耕一郎（久留米大学小児科）、深堀 優（八木委員代理：久留米大学小児外科）、  
野村優子（福岡大学小児科）、西 眞範（佐賀大学小児科）、  
村守克己（佐賀県医療センター好生館小児外科）、岡田雅彦（長崎大学小児科）、  
末延聡一（大分大学小児科）、飯田則利（大分県立病院小児外科）、  
糸長伸能（大分県立病院小児科）、右田昌宏（熊本赤十字病院）、  
盛武 浩（宮崎大学小児科）、林田 真（宮崎県立宮崎病院小児外科）、  
家入里志（鹿児島大学小児外科）、河野嘉文（鹿児島大学小児科）、  
百名伸之（琉球大学骨髄移植センター）、  
比嘉 猛（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター小児科）、  
高田英俊（九州大学病院小児科）、木下義晶（九州大学病院小児外科）、  
古賀友紀（九州大学病院小児科）、宗崎良太（九州大学病院小児外科）、  
大賀美喜（九州大学病院医療管理課）

### I. 開会挨拶

高田英俊委員より、会議に先立ち挨拶があった。

また、今回より会議名称が変更されたことについて説明があった。

### II. 議事（司会：高田英俊委員）

#### 1. 議事録の確認

第4回、第5回九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院連絡会議議事録について、内容の確認を行った。また、田口副委員長より下記質問への回答があった。

《第4回》 琉球大学 百名委員より、成育医療センターにおけるコンサルト症例の病理診断について、JCCGにおける中央化により診断料がどのようになるのかという質問への回答は、次回のJCCG理事会において確認を行い回答することとした。

《第5回》 久留米大学 大園先生（上田委員代理）より、骨肉腫の患者さんはJCCGやBBJとどのように連携していくのかという質問へは、「JCCGは現在骨肉腫、網膜芽腫をカバーしていない状況である。ユーイング肉腫、横紋筋肉腫については委員会があるが、骨肉腫、網膜芽腫は現在のところ委員会がない。今後、成人の学会（整形外科学会、日本眼科学会）との擦り合わせが必要」との回答であった。

#### 2. 小児がん拠点病院について

##### (1) 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会

###### ① 組織図、構成員について

資料1-1に基づき、九州・沖縄地域小児がん医療提供体制組織図及び構成員名簿の確認を行った。

###### ② 会則の改正について

資料1-2に基づき、九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会会則の一部改正について説明があり、異議なく了承された。

###### ③ 会議の運用変更について

資料1-3に基づき、平成27年7月の書面会議にて承認された運用の変更点について



確認を行った。

(2) 平成27年度の活動報告

- ④ 九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院テレビ会議について  
資料2-1に基づき、これまでの会議内容及び今後のスケジュールについて報告を行った。
- ⑤ 九州大学病院小児緩和ケアチーム活動報告  
資料2-2に基づき、平成27年4月より運用を開始した小児緩和ケアチームの活動報告を行った。
- ⑥ 九州大学病院 CLS (チャイルド・ライフ・スペシャリスト) 活動報告  
資料2-3に基づき、九州大学病院で勤務しているチャイルド・ライフ・スペシャリストの活動報告を行った。

(3) 厚生労働科学研究 平成27年度第1回松本班 班会議報告

田口委員より資料3に基づき、平成27年6月8日に開催された班会議について報告が行われた。

(4) 第2回小児がん拠点病院連絡協議会報告

古賀委員より資料4に基づき、平成27年6月8日に開催された協議会について報告が行われた。

大分大学末延委員より、今後のCLSの養成に関して、国がどのように考えているのか議論はなかったのか質問があった。古賀委員より、議題はなかったこと、またこの件については次回同会議で確認を行い回答することとした。また、田口副委員長よりCLSについて補足説明があった。

(5) 日本小児がん研究グループ (JCCG) 会議報告

田口副委員長より資料5に基づき、JCCG 理事会及び運営委員会、また平成27年6月に発足した総会について報告が行われた。

さらに、平成28年2月開催予定の第7回本協議会及び第45回九州地区小児固形悪性腫瘍委員会では、JCCG 現理事長の水谷修紀氏にご講演いただく旨連絡があった。

(6) 治験について

木下委員より資料6に基づき、小児がんに関連する2つの治験 (GD2、TBT) の現状報告が行われた。

(7) その他

各会議の次回開催日について

第7回小児がん医療提供提供体制協議会 ; 平成28年 2月27日 (土)

第15回小児がん拠点病院TV会議 ; 平成27年10月26日 (月)

Ⅲ. 閉会



# 第7回 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 第45回九州地区小児固形悪性腫瘍委員会

日 時 平成28年2月27日(土) 12:00~13:00  
場 所 九州大学医学部総合研究棟 会議室 205

## 会 議 次 第

### I 開会挨拶 (協議会委員長、九州大学病院 病院長 石橋 達朗)

### II 議事

#### 1. 議事録確認

第6回九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 (平成27年9月28日)

#### 2. 小児がん拠点病院について

##### (1) 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会

①組織図、会則、構成員

資料 1-1~1-3

②会議の運用変更について

資料 1-4

##### (2) 平成27年度の活動報告

①九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院テレビ会議について

資料 2-1

②九州大学病院小児緩和ケアチーム活動報告

資料 2-2

③九州大学病院 CLS(チャイルド・ライフ・スペシャリスト)活動報告

資料 2-3

##### (3) 厚生労働科学研究 松本班 班会議報告

資料 3

##### (4) 小児がん拠点病院連絡協議会

①第3回協議会報告

資料 4-1

②相談支援部会について

資料 4-2

##### (5) 小児がんに関連する治験について

資料 5

##### (6) 日本小児がん研究グループ(JCCG)会議報告

資料 6

##### (7) 共同機構 各グループスタディ報告

資料 7

#### 3. 九州地区小児固形悪性腫瘍委員会報告

##### (1) 構成員

資料 8

##### (2) 病理診断報告

資料 9

#### 4. その他

①九州地区の専門医制度に関する状況

資料 10

②2016年度診療報酬改定について

資料 11



第7回九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会議事録  
第45回九州地区小児固形悪性腫瘍委員会会議録

日時：平成28年2月27日（土）12:00～13:00

場所：九州大学医学部総合研究棟 会議室205

出席者：石橋達朗（九州大学病院長：委員長）、田口智章（九州大学病院小児外科：副委員長）、小田義直（九州大学病院病理診断科：副委員長）、本田裕子（楠原委員代理：産業医科大学小児科）、中川慎一郎（上田委員代理：久留米大学小児科）、橋詰直樹（八木委員代理：久留米大学小児外科）、朝川貴博（聖マリア病院小児外科）、野村優子（福岡大学小児科）、西 眞範（佐賀大学小児科）、村守克己（佐賀県医療センター好生館小児外科）、田浦康明（長崎大学第一外科）、大場詩子（末延委員代理：大分大学小児科）、飯田則利（大分県立病院小児外科）、糸長伸能（大分県立病院小児科）、猪股裕紀洋（熊本大学医学部附属病院小児外科）、阿南 正（熊本大学医学部附属病院小児科）、右田昌宏（熊本赤十字病院）、盛武 浩（宮崎大学小児科）、林田 真（宮崎県立宮崎病院小児外科）、家入里志（鹿児島大学小児外科）、河野嘉文（鹿児島大学小児科）、百名伸之（琉球大学骨髄移植センター）、金城 僚（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター小児外科）、高田英俊（九州大学病院小児科）、木下義晶（九州大学病院小児外科）、古賀友紀（九州大学病院小児科）、田口匠平（有馬委員代理：北九州市立医療センター小児外科）、竜田恭介（財前委員代理：福岡市立こども病院小児外科）、秋月玲子（厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課）、水谷修紀（JCCG 理事長）、砂田一代（福岡県保健医療介護部健康増進課）、孝橋賢一（九州大学病院病理診断科）、宗崎良太（九州大学病院小児外科）、

## I. 開会挨拶

石橋達朗委員長より、開会の挨拶があった。また、秋月玲子先生、砂田一代氏から挨拶があった。

## II. 議事（司会：田口智章副委員長）

### 1. 議事録の確認

第6回九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会議事録について、内容の確認を行った。

### 2. 小児がん拠点病院について

#### (1) 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会

##### ① 組織図について

資料1-1に基づき、九州・沖縄地域小児がん医療提供体制組織図の確認を行った。

##### ② 会則について

資料1-2に基づき、九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会会則の確認を行った。

##### ③ 構成員について

資料1-3に基づき、沖縄地域小児がん医療提供体制構成員名簿の確認を行い、佐賀県医療センター好生館小児科の稲田浩子先生を委員に追加することが審議され、全会一致で承認された。

④ 会議の運用変更について

古賀委員より資料1-4に基づき、例年6月に開催していた「九州山口小児血液・腫瘍研究会」の開催時期を9月に変更し、併せて本協議会を開催してはどうかと提案があり、承認された。

尚、次回研究会は9月3日(土)に九州大学で開催予定だが、9月3日は九州大学小児外科主催の学会が予定されている都合上、協議会は9月4日(日)に九州大学で開催することとし、4日午前中に小児血液・がん学会主催「九州山口小児がんセミナー」を開催し、セミナー終了後に協議会を開催することについて提案があり、全会一致で承認された。

(2) 平成27年度の活動報告

① 九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院テレビ会議について

資料2-1に基づき、これまでの会議内容及び今後のスケジュールについて報告を行った。

② 九州大学病院小児緩和ケアチーム活動報告

高田委員より、資料2-2に基づき、平成27年4月より運用を開始した小児緩和ケアチームの活動報告を行った。

③ 九州大学病院 CLS (チャイルド・ライフ・スペシャリスト) 活動報告

古賀委員より、資料2-3に基づき、九州大学病院で勤務しているチャイルド・ライフ・スペシャリストの活動について、CLS・HPS・子ども療養支援士のそれぞれの資格制度についての報告を行った。

(3) 厚生労働科学研究 平成27年度第1回松本班 班会議報告

田口副委員長より、資料3に基づき、平成27年12月19日に開催された班会議について報告が行われた。また、古賀委員より「小児がん診療に関する情報提供」に関する回答協力の御礼があった。

(4) 小児がん拠点病院連絡協議会について

① 第3回協議会報告

古賀委員より、資料4-1に基づき、平成28年1月21日(木)に開催された協議会の報告を行った。

② 相談支援部会について

古賀委員より、資料4-2に基づき、九州大学病院の相談支援員であるCLSが中心となり、来年度以降、九州・沖縄地域の相談支援部会を開催する予定である旨、報告が行われた。

(5) 小児がんに関連する治験について

資料5に基づき、小児がんに関連する治験について、木下委員より「GD2、TBT、肝芽腫」について、古賀委員より「ブレンツキシマブ ベドチン」について報告が行われた。

(6) 日本小児がん研究グループ (JCCG) 会議報告

JCCG 理事長の水谷修紀先生にご挨拶をいただいた。

田口副委員長より資料6に基づき、JCCG 組織図、JCCG 理事会及び運営委員会について報告が行われた。

(7) 共同機構 各グループスタディ報告

資料7に基づき、共同機構各グループスタディについて、木下委員より「JNBSG, JWITS, JPLT, JRSG, JGCT」について、古賀委員より「JESS, JPBTC」について、報告が行われた。



### 3. 九州地区小児固形悪性腫瘍委員会について

#### (1) 構成員

田口副委員長より資料8に基づき、構成員の確認が行われた。

#### (2) 病理診断報告

小田副委員長より資料9に基づき、2015年登録状況：113例、施設診断との相違なし、との報告が行われた。

### 4. その他

#### (1) 九州地区の専門医制度に関する状況

木下委員より資料10に基づき、日本小児血液・がん学会の小児がん研修施設、暫定指導医数、専門医数、認定外科医数について、九州沖縄・山口の現状と問題点を報告した。

#### (2) 2016年度診療報酬改定について

田口副委員長より資料11に基づき、来年度の診療報酬改定で小児医療の見直しが行われ、小児医療の重点評価が改定の大きな柱になっており、小児医療に追い風が吹いている旨、報告があった。

#### (3) 国際小児がんデーについて

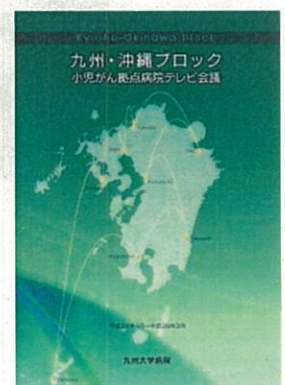
田口副委員長より、がんの子どもを守る会九州北支部から依頼があり、「国際小児がんデー（2月15日）」にあわせて、九州大学病院の外来棟玄関付近にゴールドリボンツリーを飾り、小児がんの啓蒙活動に協力していること、また福岡県庁ロビーでもゴールドリボンツリーや小児がんの子ども達の絵画展を開催していた旨、報告が行われた。

## III. 閉会

## 平成27年度 九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院テレビ会議 開催実績

- ◎第10回(平成 27年 4月 27日)、当番施設:佐賀県医療センター好生館  
 【症例呈示】 イレウスで発症した炎症性筋線維芽細胞性腫瘍の1例(佐賀県医療センター好生館)  
 【討論会】 各施設が関わっている患者団体(家族会)、ボランティア団体について
- ◎第11回(平成 27年 5月 25日)、当番施設:熊本赤十字病院  
 【症例呈示】 診断、治療に苦慮した中枢神経原発悪性リンパ腫症例に対する多職種連携について(熊本赤十字病院)  
 【討論会】 各施設の多職種連携について
- ◎第12回(平成 27年 6月 22日)、当番施設:県立宮崎病院  
 【討論会】 各施設の医療連携について  
 【報告】 厚生労働科学研究 平成27年度第1回松本班 班会議の報告  
 第2回小児がん拠点病院連絡会議協議会報告
- ◎第13回(平成 27年 7月 27日)、当番施設:九州がんセンター  
 【症例呈示】 卵子保存の現状と課題(長崎大学)  
 【討論会】 精子・卵子保存について
- ◎第14回(平成 27年 8月 24日)、当番施設:大分県立病院  
 【症例呈示】 ALLの維持療法中、四肢麻痺が出現し急激に死に至った21トリソミーの症例(大分県立病院)  
 【討論会】 小児がん患者の長期フォローの取り組みについて
- ◎第15回(平成 27年 10月 26日)、当番施設:熊本医療センター  
 【討論会】 小児血液・がんの緩和ケア、終末期ケアについて
- ◎第16回(平成 27年 11月 16日)、当番施設:久留米大学  
 【討論会】 小児がんと放射線治療について  
 【その他】 (研修カンファレンス)粒子線治療と小児がん
- ◎第17回(平成 27年 12月 21日)、当番施設:鹿児島市立病院  
 【討論会】 小児がん患児の口腔ケアについて  
 【その他】 (研修カンファレンス)小児がん患者の口腔ケア
- ◎第18回(平成 28年 1月 18日)、当番施設:沖縄県立南部医療センター・こども医療センター  
 【症例呈示】 小児がん患者におけるPICCの使用経験(沖縄県立南部医療センター・こども医療センター)  
 【討論会】 小児がん患者における中心静脈カテーテル管理について
- ◎第19回(平成 28年 2月 22日)当番施設:福岡大学  
 【症例呈示】 Desmoplastic small round cell tumor の1男児例(福岡大学病院)  
 【討論会】 各施設での取り決めごとについて  
 【報告】 厚生労働科学研究 平成27年度第2回松本班班会議 報告  
 第3回小児がん拠点病院連絡会議協議会報告
- ◎第20回(平成 28年 3月 28日)当番施設:佐賀大学  
 【症例呈示】 大量の心嚢液貯留を契機に発見された右心房原発血管肉腫の1例  
 【討論会】 抗がん剤暴露対策について

&lt;冊子&gt; 年1回発行





## 平成 27 年度 小児緩和ケアチームの活動について

## 経緯

九州大学病院は平成 25 年 2 月に厚生労働省より「小児がん拠点病院」に指定されたことに伴い、小児がん拠点の要件の 1 つである小児緩和ケアチームを整備し、平成 27 年 4 月より運用を開始しました。

開始当初は、対象を小児がん患者に絞って活動を行っていましたが、現在は小児がん以外の患者さんにも対象を拡大し活動しています。

ラウンドの開催 …… 毎週火曜日に開催

カンファレンス(症例検討)の開催 …… 偶数月 第一火曜日に開催

勉強会の開催実績 …… 奇数月 第一火曜日に開催

平成 27 年 5 月 12 日	第 1 回 「小児緩和ケア概論」
平成 27 年 7 月 7 日	第 2 回 「緩和ケア(1)～がん疼痛について～」
平成 27 年 9 月 1 日	第 3 回 「緩和ケア(2)～嘔気・嘔吐について～」
平成 27 年 11 月 10 日	第 4 回 「不安・不眠について～」
平成 28 年 1 月 26 日	特別企画 (心肺蘇生サポート委員会共催) 「延命治療の差し控え・中止をめぐる臨床倫理の考え方」 講師:宮崎大学医学部社会医学講座生命・医療倫理学分野 教授 板井 孝彦先生
平成 28 年 3 月 1 日	第 5 回 「発達障害」

院内掲示ポスター →

↓ ラウンドの様子



こんな悩みありませんか？

そんな時は小児緩和ケアチームがお手伝いします。

小児緩和ケアチームは、お子さんの病気の種類に関わらず、病気や治療による様々な辛い症状や心の不安などがすこしでも和らぐよう、お手伝いいたします。

医師・看護師・薬剤師・臨床心理士・チャイルド・ライフ・ケア・ヤリスト(CLS)などの専門スタッフがチーム体制でサポートいたします。

こんなときご相談ください

- ・こどもが痛み、吐き気、不眠などで辛そう
- ・最近、こどもがらささかんでいるようで、話を聞いてあげてほしい
- ・病気やこれからのことについて詳しく知りたい
- ・医療費や社会福祉サービス、学習支援などについて教えてほしい
- ・家で待つぎょうだいの関わり方について相談したい
- ・在宅医療について情報を知りたい
- ・誰かにゆっくり話を聞いてほしい

など、どんなご相談でもかまいません。

ご希望の方は、スタッフまでお声かけください。

九州大学病院小児緩和ケアチーム H28.1



# 小児緩和ケアチーム グリーフカードの配布について

## <主旨と目的>

家族、特に親にとって子どもに先立たれるという体験は峻烈であり、子どもの死は親の死亡率・精神疾患発症率・離職率の高さに繋がっているという研究報告もあるほど、小児医療の分野においてグリーフケアは欠かすことが出来ないものであると言えます。

小児緩和ケアチームは平成27年4月より活動を開始しておりますが、小児緩和ケアに含まれるグリーフケアについては、現場の医療従事者は必要性を強く感じていたものの、十分な体制が整わず活動を開始するまでに至っておりませんでした。

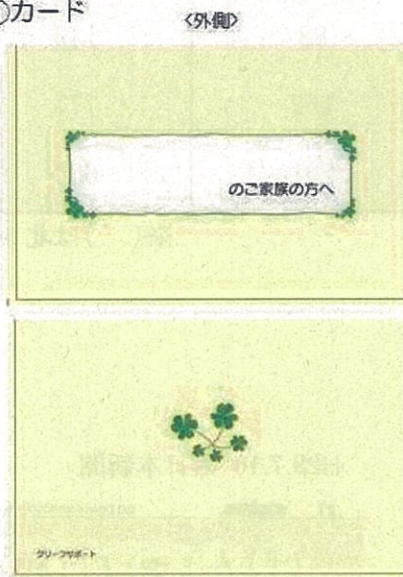
そこで、この度小児緩和ケアチームのメンバーや小児関係各部署の医師・看護師をメンバーとしたワーキンググループを立ち上げ、グリーフケアの一環として配布を行うグリーフカードを作成しました。このグリーフカードは死亡診断書とともにご遺族にお渡しすることを想定しており、帰宅後にご遺族が当院でのグリーフケアを希望された際、当院への連絡手段のひとつとなることを目的としており、実際に平成28年8月1日より配布を開始しました。

## <封筒（右記）の内容物>

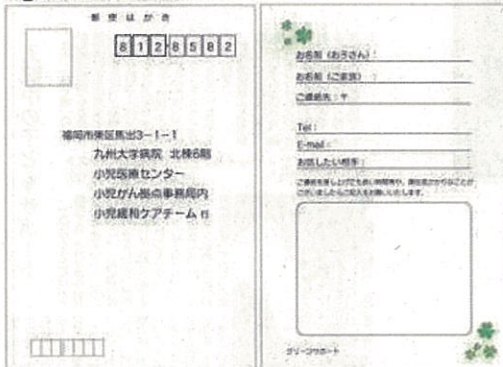
- ①カード
- ②返信用ハガキ
- ③個人情報保護シート



### ①カード



### ②返信用ハガキ



### ③個人情報保護シート





平成 27 年度 CLS (チャイルド・ライフ・スペシャリスト) の活動報告

【活動内容】

(件)

詳細	CLS 1 (主に北 6-1 担当)	CLS 2 (主に北 6-2 担当)	合計
患者訪問	2,297 (不明)	2,505 (300)	4,802 (300)
初回	678	163	841
フォローアップ	1,619	2,342	3,961
手術のプレパレーション	294	27	321
麻酔導入時のコーピングサポート	121	10	131
処置・検査のプレパレーション & サポート	166	312	478
処置中のサポート・ディストラクション	50	553	603
病気の説明補助	21	57	78
遊びの提供・発達支援	410	653	1,063
治癒的遊びの提供	88	146	234
きょうだい・家族支援	162	777	939
患者・親の話を傾聴	291	654	945

※( )は北 6 病棟以外、内数。

【学会発表等】 平成 27 年度 計 6 件

【メディア掲載】

H27.4.2 テレビ西日本



H28.7.16 西日本新聞





平成 27 年 12 月

保護者各位

九州大学病院

病院長 石橋 達朗

「恵愛団ファミリーハウス森の家」  
宿泊費補助事業の開始について（お知らせ）

九州大学病院が小児がん拠点病院に指定されたことに伴い、入院患者家族支援事業の一環として、平成 28 年 1 月より上記事業を開始することになりました。

つきましては、18 歳以下の患者さんのご家族等が「恵愛団ファミリーハウス森の家」を利用される際、平成 28 年 1 月以降は宿泊 1 泊につき 1,000 円を九州大学病院が補助いたします。

尚、本事業は「恵愛団ファミリーハウス森の家」をご利用の場合のみ適応されます。他の宿泊施設をご利用の場合は、補助の対象とはなりませんので予めご了承下さい。

## 記

1. 患者さんが 18 歳以下であれば補助の対象となります。診療科・疾患は問いません。
2. 利用目的が「宿泊」の場合に限り、補助の対象となります。
3. 事前の手続き等はありません。これまで通り恵愛団で利用申込手続きを行ってください。

以上

「恵愛団ファミリーハウス森の家」運営／問い合わせ：(財)恵愛団 総務  
(平日のみ) 8:30-17:00 TEL:092-642-6853

その他問い合わせ：小児医療センター 小児がん拠点病院事務局  
(平日のみ) 9:00-17:00 TEL:092-642-5093



入院患者さん及び手術待機等のご家族向け宿泊施設

**恵愛団ファミリーハウス森の家**

1泊1室 2,000円

九ヶ所まで歩いて100m 恵愛団内の家族向け宿泊施設

洋室タイプ 2016 ROOMTYPE

和室タイプ 2020 ROOMTYPE

車椅子対応タイプ 2026 ROOMTYPE

バスルーム

調理スペース








ドナルド・マクドナルド・ハウス  
ふくおか

1泊1室 1,000円

リビング

ベッドルーム

調理スペース

エントランス







ぼっぼハウス

1泊1室 800円

なかよしハウス

1泊1室 800円




施設名	病院からの距離	調理スペース	ランドリー	プレイルーム	人の配置
恵愛団ファミリーハウス森の家	100m	○	○	○	×
ドナルド・マクドナルド・ハウス ふくおか	6km	○	○	○	○
ぼっぼハウス	200m	○	○	×	×
なかよしハウス	7km	○	×	×	×



1. 患者団体(がんの子どもを守る会)による『国際小児がんデー』啓発イベントについて

【開催日程】平成 28 年 2 月 8 日(月)～平成 28 年 3 月 4 日(金)

【趣旨/目的】2 月 15 日の『国際小児がんデー』に合わせ、小児がん拠点病院と小児がん患者団体「がんの子どもを守る会」が連携協力して啓発イベントを開催した。

このイベントは小児がんに関する正しい知識の啓発に努め、理解の促進及び支援者の拡大を目指し、小児がんの医療向上・療養環境整備に取り組む関係者の士気を高め、今後の小児がんを取り巻く環境改善に寄与することを目的としている。

＜九州大学病院 外来棟 1 階 玄関付近 (写真 1)＞

ツリーと掲示パネル、ゴールドリボンを設置。

世界共通の小児がん支援のシンボルマークとなっている「ゴールドリボン」を訪れた患者さんに自身でツリーに結んでもらうという啓発活動を行った。最終的に集まったゴールドリボンは、505 個であった。



＜九州大学病院 北棟5階 小児外来の診察室付近 (写真 2)＞

小児がん拠点掲示板上にパンフレットやゴールドリボンを取付け、外来棟1階と同様に患者さんにリボンを貼り付けてもらうという啓発活動を行った。最終的に集まったゴールドリボンは、129 個であった。



2. 企業(アフラック)による『がんを知る展』について(当院から作品提供)

【イベント名】『がんを知る展』(主催;アフラック、共催;福岡県、福岡市)

【開催日程/場所】平成 28 年 7 月 1 日(金)～3 日(日) / イオンモール香椎浜 1F セントラルコート

【目的】模型やパネルを通じて早期発見・治療の重要性を呼び掛け、がん検診のきっかけとする。

小児がんと闘う患児の作品を会場内に展示し、小児がんを理解していただく。

※「こどもがん展ゾーン(パネル・小児がんのこどもたちの作品)」へ、院内学級教諭に協力いただき、九州大学病院の患者さん 8 名(7～16 歳)の作品 10 点を提供した。(写真右下)





